

奥州遺産

No.35

猿岩

〓 胆沢区若柳字東前川山 〓

間もなく完成を迎える胆沢ダムにより形成され、地域を潤す水瓶としての機能を果たす奥州湖。その水面から南岸に、猿岩は悠然とそびえ立つ。

猿岩は、岩肌の形状がサル顔に見えることから、その名が付けられたといわれる。中腹には、五穀豊穡を祈願する於呂閑志神社の奥宮がある。明治初期までは「猿山神社」「石倉寺」「猿山明神社」などと呼ばれ、この地方の作神様として信仰されてきた。

大きな一枚岩からなる猿岩。昭和25年に着工した石淵ダムの建設では、付近の岩盤を発破で崩し、原石を採取した。その原石を積み上げ、ロックフィルダムの堤体が完成。猿岩からの原石が59年間、ダムの機能を支えてきた。

ことし5月、試験淡水により奥州湖は最高水位まで満たされた。地域から崇拜される猿岩は、胆沢ダムの安全と胆沢平野の実りを見守り続ける。

黒い岩肌の猿岩。奥州湖の湖面を見下ろす



広告